

第11回「イクメンの星」に選定された渡辺徹さんのプロフィールと体験談

ニックネーム	流れ星
本名	渡辺 徹 (わたなべ とおる)
職業	公務員
年齢	33歳
イクメン宣言	
<p>一生イクメン宣言。</p> <p>現在半年間の育児休業中。</p> <p>二回目で勝手がわかる部分もありますが、子育ては常に未知との遭遇。一日として同じ日はない。苦労も二倍になったかもしれないが、幸せや喜びは二倍の何乗にもなっています。</p> <p>育児休業取ることがイクメンではない。生涯子育てに主体的に関わり続けることと社会への還元が自分の役割と信じて。</p> <p>母乳あげること以外の全てが男性にできるはずですから。</p>	
育休・育児体験談	
<p>三才半と一才の娘の父親です。長女で三か月育児休業を取得し、現在は次女が一才になるのに併せて、妻と入れ替わり、半年間の育児休業中です。</p> <p>私たち夫婦は共働き。ともに自分たちの仕事に誇りと生きがいを感じています</p> <p>子どもができるまでの自分は、子どもが得意とは言えず、正直電車の中で騒いでいる子どもを見ると苦々しい気持ちでいっぱいでしたし、親戚の子どもですら、口では「かわいいねえ」と言いながら、内心はよその子との違いもたいしてわからず、子育て大変だなあとか思っていたくらいでした。</p> <p>そんな自分ですが、基本的に夫婦は常にフィフティフィフティであるべきだと思っています。権利も義務も対等。何事もできるほうがやればいいし、〇〇してあげるではいい結果は産まれない。育児においても同じように考えました。</p> <p>子どもを産むことだけと母乳をあげることだけは自分には出来ない。でもあとはすべて男性にもできるはずだ。そう思いました。</p> <p>とはいえ、小さいうちは、精神的支柱はどうしても母親になりがち。私は自分自身で母親にはなれないと割り切ってやっています。料理も一人暮らし経験が長くないこともあって、得意とは言えない。それでも毎日の育児でそんなことは言ってられません。凝った料理は作れないけれど、できるだけ栄養バランスを考えて、子どもたちが喜ぶような味や食感を大切にしました。</p>	

キャラ弁はまだ自分には、相当ハードルが高いですが、小さい子どもが食べやすい野菜をすり潰した肉団子風ならできる・・・みたいな。

「パパでもいい」が「パパがいい」に少しでも変わってくれば良いなと思ってます。

子どもたちにもできるだけたくさん経験をさせてあげたいと思っています。

上の娘は、下の娘が産まれるまでは保育園に通わせていましたが、今は自主保育サークルに参加しています。

ときには親と一緒に。ときには子どもたちだけで、泥んこになりながら野山を駆け回ったり、四季色とりどりの草花で首飾りを作ったり。

一日中くたくたになるまで遊んでいます。

パパ1人にママさん30人とかの中に入って、お祭りやイベント企画を考えたり、ママトークに参加するのも最初はずいぶん気おくれでしたが、子育てする同じ仲間。

仲良くなれないはずはない、先に自分が垣根を取らなくてはと考え、話かけることに。今ではずいぶんたくさんのママさんと知り合うことができました。

もちろんサークルがないときは、家で子どもと絵本や積み木でいくらか遊びますが、できるだけ子どもがのびのびと力を発揮できる場面を与えてあげたい。

泣いてばかりいた娘がいつのまにか、山で盛大に転んでも擦り傷をさすりながらも自分で起き上がってまた前へ進もうとする姿は大変たのもしくあります。

男性が子育てに積極的に参加するようになり、メディア等でイクメンが取り上げられる機会も増えてきました。

組織のリーダーやトップが育児休業を取得することもしばしば取り上げられます。

そのこと自体は組織での子育てに対する理解や育児参加への取り組みが加速することにも繋がるので、望ましいと思います。

しかし本当に望まれることは、男性の育児休業が当たり前になり、恒常的に男性が育児に参加できるよう組織全体の意識が変わることではないでしょうか。

一週間の育児休業が終わったら、翌日から子どもの顔も見られない終電帰りや、妻任せの育児になるのはあまりに悲しいことと思います。

生涯イクメン宣言。これが私の目標です。

↓よろしければ、ブログもご覧ください。

<http://ameblo.jp/deza1979/>